

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201328
法人名	社会福祉法人 大島福祉会
事業所名	グループホーム あしょかの里
所在地	今治市吉海町仁江262- 1
自己評価作成日	平成23年2月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年2月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族の方や地域の方、どなたにでも気軽に来ていただけるホームにしたいと心掛けています。習字、出前喫茶、爪切り、草引きや民舞の方の踊り等多くのボランティアの方が来て下さっています。小学生の福祉体験学習や中学生のボランティア学習の受け入れも行っていきます。又保育園や小学校の運動会、盆踊りや花火大会、敬老会、文化祭等地域の行事にも積極的に参加し、地域の方との交流も大切にしています。地元の新鮮な魚やホームの畑で採れた旬の野菜等を使って、食事作りを入所者の方と共同でしています。入所者の方の役割作りや生きがい作りの支援を行いながら、職員も入所者も共に生き生きと楽しく暮らしたいと思っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「爪きりボランティア」「喫茶ボランティア」「習字ボランティア」等、地域のボランティアの訪問があり、又、中学生や小学生が福祉体験に訪れた際、利用者は子ども達と折り紙やあやとり、お手玉等を一緒に楽しませている。地域の敬老会や盆踊り・花火大会等へも出かけておられる。  
献立は、職員が1週間ごとに立てて、毎日、利用者と一緒に食材の買い出しに出かけておられる。食事作りも利用者で行っておられ、調査訪問時、利用者は、白和えの豆腐をすり鉢で擦っておられたり、テーブル拭きをされていた。口腔体操を行ってから食事を食べるようにされていた。月1回お弁当を作って雰囲気を変えて食事を楽しまれており、桜の咲く頃には、お弁当を持ってお花見に行きたいと話しておられた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム あしょかの里

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

村上五鈴

評価完了日

平成23年2月15日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「利用者の方の自由」について考えながら見直しを行うが、 自由な考えにすべて応えることが出来ない為、見直しが出 来ていないままですが、開設当初からの「感謝の心を大切 に、いつもここにこ真心こめて笑顔あふれる、和やかな暮ら し」を理念に掲げ、ありがとうの言葉と笑顔があふれるホーム にしたいと考えている。	
			(外部評価) 理念は、事業所開設時に作成されており、食堂の壁に大きく 掲示されていた。管理者は、今後、理念に「自由な暮らし」と というキーワードを採り入れたいと考えておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の行事への参加やボランティアの受け入れを積極的に 行い、地域の方との交流を行っている。毎日、入所者の方と 職員で買物にも行っている。	
			(外部評価) 日々の散歩時、地域の方達とあいさつを交わしたり、職員と 食材等の買い物に出かけた際には知り合いの方と会うことも あり、声をかけ合っている。「爪きりボランティア」「喫茶ボラン ティア」「習字ボランティア」等、地域のボランティアの訪問が あり、又、中学生や小学生が福祉体験に訪れた際、利用者 は子ども達と折り紙やあやとり、お手玉等を一緒に楽しまれ ている。地域の敬老会や盆踊り・花火大会等へも出かけてお られる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 小学校の体験学習、中学校のボランティア学習の受け入れ を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、運営状況や行事予定の報告、あしよかの里便りの発行している。運営推進会議で出た意見については、全職員で話し合いを行いサービス向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月に1回会議を開催して、事業所の活動報告等をされたり、会議と合わせてお花見等を行っておられる。ご家族の「他のご家族にも運営推進会議を知ってほしい」という思いから「毎回、家族全員に会議の案内を出してほしい」との要望があり、次回から実行することになっていた。さらに、会議の議題等も工夫して、皆で認知症の理解を深めたり、実際に事業所のケアを見ていただいたり、体験してもらいながら意見や感想を具体的に引き出し、事業所のサービスの向上に活かしていかれてほしい。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営等について、気軽に相談をし協力をお願いしている。気をつけて情報提供もして下さる。</p> <p>(外部評価) 市の担当者や地域包括支援センターの方が、運営推進会議に毎回出席していただき、市内の介護施設の情報等、資料持参で報告してくださっている。公民館の行事に参加した際には、市の担当者の方が、利用者が二階に上がる際、介助を手伝ってくださったこともある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修会で学習し職員間で話し合いを行い、身体拘束をしないケアを実践している。</p> <p>(外部評価) 県グループホーム協議会が主催する研修会で身体拘束の知識等を勉強して、ミーティング時に他の職員にも伝達して共有されている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			研修会で学習し職員間で話し合いを行い、虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			研修会で勉強したが、活用する機会はない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			十分な説明を行い、理解納得は出来ていると思う。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			利用者や家族の意見、要望は日常生活の会話や面会時又電話等で聞き、職員間で話し合いを行い運営に反映している。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪はよくあり、ご家族のお話をよく聞き、ご家族の意見や要望等の把握に努めておられる。家族会は、年2回開催して運営推進会議の報告をされたり、行事の報告をされている。	利用する側であるご家族の声は、事業所のサービスを良くするきっかけにもなることであり、さらに、ご家族が気付いたことや事業所のケアサービスに期待していることを、具体的に聞けるように工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月ミーティングを行い、意見交換をしている。	
			(外部評価)	
			月に1回、全職員が集まって、ミーティングを行い、外部研修受講の報告を行ったり、行事予定等を決めておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			個人面接を実施し、職員個々の悩みや要望等を聞く機会を設けている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			グループホーム連絡協議会の研修会には全職員が参加し、毎月のミーティングで研修報告を行っている。又相互研修に毎年参加している。四国フォーラムにも毎年参加するようにし、その他にも良い外部研修があれば、希望者が参加するようにしている。又資格取得に関する経済的支援を行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			相互研修に参加し、他ホームの職員の意見を聞きサービスの質の向上に取り組んでいる。毎年他の事業所でのマンダリンコンサートに出掛けていて、情報交換も行っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用前に利用者に会って話しをしたり、ホームを見学してもらう等して少しでも不安をなくすように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問したり、ホームを見学してもらう等して家族の話を時間をかけて聞く様にしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族のニーズに応じる様に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩とし尊重し、色々な事を教えて頂き支え合う関係を築いている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の日々の様子を知っていただく為、運営推進会議の時に発行しているお便りと運営状況報告書、会議録を家族の方全員に渡している。運営推進会議に入所者の方、家族の方にも出席をお願いしている。面会にも出来るだけ来て頂く様にし、夏祭りや誕生会にも参加をお願いしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域のミニデサービスや特養の行事、又地域の色々な行事にも積極的に参加し交流の機会を持つ様にしている。家族や知人等多くの方の面会をお願いしている。毎日、交代で職員と買物にも行っている。	
			(外部評価) ご家族に年賀状を出すことを支援されており、娘さんから「うれしかった」と、返信をもらったり、メロディ付きのカードが贈られて来ることもある。週に1回、ご家族が昼食を持って来られ、居室でご家族と一緒に食事をする利用者もいる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) テーブルの座席を工夫している。皆さんが協力して洗濯物たたみ、掃除、調理等が楽しく出来る様に支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設に入所しても時々会いに行く様にしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中から本人の希望や意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者の情報をセンター方式の様式を用いてアセスメントするようになっているが、遅れがちになっている。管理者は「研修を活かせるようアセスメントの勉強を重ねたい」と話しておられた。	利用者一人ひとりの思いや意向を深く探るためにもアセスメントの充実に取り組み、よりご本人主体のケアの実践につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から出来るだけ詳しい話を事前訪問で聞くようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの状況を把握し、その人の能力が発揮出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>介護計画の作成は本人、家族の要望を聞き職員間で話し合いをして行う。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者やご家族からの暮らしへの希望をお聞きして職員で話し合い、ケアマネージャーが介護計画を作成し、その後3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年毎、計画を見直しておられる。ご家族の来訪時に作成した計画を見ていただき、支援内容について意見を聞くようにされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>業務日誌や介護記録、個別ノート等で情報を共有している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>嘱託医への受診は、職員が行っている。天気の良い日は、ドライブに行ったり、散歩に行ったりして、出来るだけ外出の機会を作るようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>色々なボランティアの方々の訪問を受けたり、地域の行事には積極的に参加して楽しい暮らしの支援をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>入所者全員、嘱託医がかかりつけ医となっているが問題は全くない。毎週往診があり、必要時はいつでも連絡が取れる体制が出来ている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>週1回協力医の往診があり、利用者全員診てもらっている。利用者の状態が心配な時には、FAXでご本人の状態を連絡して、指示を仰ぐようにされている。協力医へ受診する場合は、職員が同行するが、島外の病院へは、ご家族が付き添って受診されている。訪問マッサージを受けて、足のむくみが改善された利用者もいる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>協力医療機関や特養の看護職員と連携を取り健康管理の支援を行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>協力医療機関や特養の看護職員と連携を取り健康管理の支援を行っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>医療機関と連携をとり、退院に向けての相談をしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>医療機関と連携をとり、退院に向けての相談をしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>事業所での看取りは難しいと考えているが、協力医療機関との連携を密にし、家族と話し合いをしながら対応して行く。</p>	
			(外部評価)	
			<p>重要事項説明書の退居条件に「自立歩行が出来なくなる」とあり、事業所では「利用者の状態が重度化した場合は、ホームで看ることは難しい」ことを入居契約時、ご家族に説明されている。重度化した場合は、協力医も含め、法人の施設や病院に移行できるようご家族と話し合われている。</p>	<p>ご家族や利用者は「できるだけ事業所で見てほしい」と思われているようだが「ホームに迷惑はかけられない」との思いもあるようだ。利用者やご家族が事業所に期待している支援について聞き取ったり、職員で話し合い、事業所のできる支援や体制について考えてみる機会にされてはどうか。</p>

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			研修会で学習し職員間で勉強はしているが、定期的な訓練は行っていない。救命救急講習を職員全員が受ける予定であるが、まだ行えていない。応急処置を現場で生かす為、日頃の訓練の必要性は感じています。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			避難訓練は毎月定期的に行っているが、地震、水害時の避難方法や地域の協力体制については、今後考えていく必要がある。	
			(外部評価)	
出火場所や時刻等、想定を変えて、毎月避難訓練を実施されている。年2回は、敷地内の法人施設と合同で避難訓練を行ってられる。訓練の後「裏口の階段が危険」「避難通路が暗いので電気が必要」「避難した利用者の見守りが必要」等、職員から意見が出された。いざという時には、地域の消防団が駆け付けてくれるようになっている。	管理者は、今後、地震や水害を想定した避難訓練を行ったり「近所の方にどのようなことを協力していただくか」ということを具体的に決めたいと話しておられた。運営推進会議で出された意見をもとに対策を検討したり、地域との協力体制を築いていかれてほしい。			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			一人ひとりの尊厳の保持を重視して日常生活を支援している。受容と共感の心を大切にしている。	
			(外部評価)	
			ミーティング時、管理者は「利用者に対し、敬意をもった言葉遣い、労りの心を持って接すること」を職員に話しておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			本人の要望を出来るだけ聞く様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先する事が多いが、出来るだけ本人の希望も大切にしながら支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な散髪や外出時はもちろん、毎日の洋服選び等の支援を行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けはほとんど職員が行っているが、テーブルを拭いたり煮干の頭や腹わたを取ったりお茶の葉をパックに入れたり等出来る事は職員と一緒にしている。職員と一緒に調理を行う事もある。毎月1回弁当を作り、皆さん盛りつけを楽しまれている。 (外部評価) 献立は、職員が1週間ごとに立てて、毎日、利用者と一緒に食材の買い出しに出かけておられる。食事作りも利用者で行っておられ、調査訪問時、利用者は、白和えの豆腐をすり鉢で擦っておられたり、テーブル拭きをされていた。口腔体操を行ってから食事を食べるようにされていた。月1回お弁当を作って雰囲気を変えて食事を楽しまれており、桜の咲く頃には、お弁当を持ってお花見に行きたいと話しておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えて献立を作り、食事量、水分量を記録している。毎月体重測定を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声掛けをし、一人ひとりに応じた介助を行っている。週2回義歯洗浄も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  トイレ誘導を行い、出来るだけ失禁のない様に支援している。又排便コントロールが上手くいくよう支援を行っている。  (外部評価)  現在、昼間は、利用者全員がトイレで排泄できる状態であり、職員が声をかけたり誘導して支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  繊維の多い食材を考え水分補給を心掛けている。リハビリ体操やレクレーションをして出来るだけ体を動かす様になっている。  (外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  午後は昼寝をしたい人が多い為午前入浴を行っていたが、入所者の方の希望を聞いたり、職員間で話し合いをした結果、午後入浴にしている。体調やその日の気分を考えながら支援しているが、個々に応じた支援は難しい。  (外部評価)  2日に1回の入浴を基本に支援されている。入浴時、職員とおしゃべりしながら入る方もいる。嫌がる時は無理強いせず、タイミングをみて声をかけるようにされている。冬至にはゆず湯を楽しまれた。浴室は暖房の設備があり温度調節されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  一人ひとりの生活習慣を大切に、自由に休息をとれるように支援している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方内容をまとめていて必要時は確認をしているが、薬の副作用等についての理解は十分出来ていない。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除や洗濯ものを干したりたたんだり等出来る家事を毎日の日課として行っている。草引きが毎日の楽しみになっている人もいる。買物、散歩、ドライブ等外出の機会を出来るだけ多く作り気晴らしの支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は、散歩やドライブ等外出する機会を作っている。又自宅に帰ったり、家族と旅行に行く等している。	
			(外部評価) 散歩したり、職員と日々の食事の材料を買いに出かける等、外に出る機会を作っておられる。近くの神社へお参りに行ったり、バラ公園や道の駅へドライブに出かけることもある。ご家族と一緒に道後温泉に一泊旅行された方もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で所持している人もいるが、色々問題があるので他の人は職員が管理を行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも自由に電話が出来る様になっている。年賀状は毎年書いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間からは外の景色や菜園が見えるので外を眺めながら自然に親しみ季節感を楽しむ事が出来る。季節の花を飾ったり、日差しが強い時期には日よけネットを利用して光を和らげたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間は南向きで日当たりがよく、掃き出しの窓からは庭に出られるようになっている。庭の一角には菜園があり、たまねぎやブロッコリー等の野菜を植えておられ、利用者は野菜が育つのを楽しみに見ておられる。テーブルに新聞を広げて、利用者同士が記事の話題で話している様子も見られた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間には畳がありそこで洗濯物をたたんだり楽しく会話をしたりしている。楽しく過ごせる様にテーブルの座席を考えている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室にはテレビやタンス、その他好みの物を置いてある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には洗面台が設置され、棚に洗面道具を置いておられる方がいた。お孫さんの結婚式に出席した際の写真を飾っておられたり、ご家族が作った造花を飾っておられる方もいた。ご自宅からソファとテーブルを持ち込み、ご家族がご自宅から梅の花を切って来られ、テーブルの上に飾っている居室も見られた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレや浴室、居室は分かり易い表示をしている。混乱や失敗が生じた時は、優しい言葉掛けを心掛けている。</p>	